

## 堺市生涯学習基本方針の作成について

### －生涯学習の未来予想図－

一般社団法人 子ども未来・スポーツ社会文化研究所代表  
京都教育大学・関西大学名誉教授  
杉本厚夫

「生涯学習」という言葉が使われて久しいですが、その言葉の意味は未だに曖昧であり、それゆえに実践の場での混乱を招いているのが現状です。それは、逆に言えば、「生涯学習」とは当為概念であり、われわれが時代や地域の状況に合わせて創り上げていく概念であると捉えることができます。

そこで、これからの社会を成長社会から成熟社会として捉え、その中で新たな地域社会の構築と生活の充実に資する生涯学習の在り方について議論してきました。

とりわけ、コロナ禍で、これまで当たり前と思っていた前提を根本から見直すことが求められる時代にあって、堺市の生涯学習の施策を策定するにあたり、「生涯学習とは何か」という根本的な問いかけから始めることにしました。

これまで、生涯学習はどちらかというと個人の自己実現を中心に、教養や趣味の学習という傾向が強かったと言えます。しかし、これからの生涯学習ではそれだけに留まらず、公共性、社会性を意識し、心豊かな社会の構築に寄与する学習が必要であると考えました。なぜなら、SDGsやOECDのラーニング・コンパスでも目指しているのは、Well-Being（健幸）であり、それは心豊かな社会なくしては実現できないからです。

そのために、行政の関りも変わってきます。第1ステージでは、生涯学習を振興するために、様々な事業をリードしてきました。第2ステージでは、学習者の主体性を推進するために、学習者に事業をゆだね、行政はそれを支援してきました。そして、これからの第3ステージでは、多様な学習者がつながり、新たな価値の創造を通して心豊かな社会を構築するための「プラットフォーム」としての役割を果たしていく必要があるのではないのでしょうか。

以上のような視点から、「堺市生涯学習基本方針」を理解していただき、堺市の生涯学習の未来予想図が叶えられることを心より願っています。

最後になりましたが、堺市生涯学習基本方針の作成に当たって、多様なお立場から真摯な議論をしていただいた懇話会のメンバーに心よりお礼申し上げます。さらに、コロナ禍の大変な時期に、資料作りからアンケート調査、議論のまとめと提案の修正などを精力的に取り組んでいただいた生涯学習課の皆さんに心より敬意を表します。